

で両所見の一致が 82% であった。反対にシンチで陰性とされながら CAG で狭窄所見のあった偽陰性が 17 例 (15%) で、うち狭心症が 16 例で 12 例は 50% 以下の狭窄。残り 4 例は 75% 以上の狭窄であった。50% 以下程度の狭窄や、75% 以上の狭窄でも良好な側副路があれば心筋の脂肪酸代謝に影響しないと考えた。偽陽性は 3 例あり、すべて拡張型心筋症であった。安静時 BMIPP 心筋シンチの早期像は虚血性心疾患の診断に有用であった。

#### 10. $^{201}\text{Tl}$ 心筋シンチグラフィにおける $^{201}\text{Tl}$ 分布状態の定量化：拡張型心筋症での検討

加藤千恵次 伊藤 和夫 古館 正從  
(北大・核)  
小野 智英 (同・循内)

拡張型心筋症 (DCM) 例での  $^{201}\text{Tl}$  心筋シンチ SPECT 像の  $^{201}\text{Tl}$  分布状態の不均一性を一次モーメントで客観的に数値化する方法を試みた。一次モーメントは画像の 2 次元的な濃度変動を敏感に抽出する定量的尺度である。対象は DCM 例 20 例、対照例 19 例。各症例の  $^{201}\text{Tl}$  心筋 SPECT 長軸矢状断層像 12 枚から一次モーメントの総和を算出した。一次モーメントは  $^{201}\text{Tl}$  分布不均一程度の視覚的評価との有意な関係を認めた。また一次モーメントは DCM 群では正常群より有意に高値であり、心不全例では非心不全例より有意に高値を示し、左室駆出率との有意な負の相関を認めた。一次モーメントは、 $^{201}\text{Tl}$  分布状態の視覚的評価を適切に数値化し、DCM の臨床像を適切に表現する指標になりうると考えられた。

#### 11. 川崎病の経過に伴う心筋スキャン所見の推移

西澤 一治 (弘前市立病院・放)  
斉藤 俊光 (同・小児)  
米坂 勸 (弘前大・小児)

冠動脈病変を有する川崎病 16 例に経過を追って dipyridamole 負荷心筋スキャンを施行し、CAG 所見の推移と比較検討した。スキャン所見は、16 例中改善 10 例、不変 5 例、悪化 1 例であった。初回のスキャンで異常を認めた 12 例のうち 10 例は所見の改善を認め、他の 1 例は不変、1 例は悪化した。初回ス

キャンが正常であった 4 例は再検でも異常を認めなかった。CAG 所見との対比では、CAG で改善を見た 7 例中 5 例はスキャンも改善、CAG 所見に変化の見られなかった 7 例でも 5 例はスキャンで改善を見た。スキャン所見が悪化した 1 例は CAG 所見でも悪化した症例であり、心筋スキャン所見の推移が改善または不変の場合、冠動脈病変の悪化はないと評価できるようであった。

#### 12. $^{201}\text{TlCl}$ 甲状腺シンチグラフィ delayed 像撮像意義の再評価

遠山 節子 秀毛 範至 高塩 哲也  
斉藤 泰博 吉田 弘 山田 有則  
吉川 太平 山口 香織 竹井 秀敏  
油野 民雄 (旭川医大・放)  
佐藤 順一 石川 幸雄 (同・放部)

甲状腺結節に対する  $^{201}\text{TlCl}$  delayed 像撮像が良悪性の鑑別に有意かどうか再評価を行った。対象 30 例 (悪性 17 例、良性 13 例) で  $^{201}\text{TlCl}$  静注後 early image と delayed image を撮像し、各結節の early ratio, delayed ratio, washout rate, retention index, 大きさを求め有意差を検討した。いずれの指標も良悪性間の平均値で差を認めたものの有意差は認めなかった。以上より甲状腺結節に対する  $^{201}\text{TlCl}$  delayed 像撮像が良悪性の鑑別に必ずしも有用であるとはいえないのでないか、との結果を得た。

#### 13. $^{201}\text{Tl}/^{99m}\text{Tc}$ サブトラクション副甲状腺シンチグラフィ——9 年間の経験——

塚本江利子 古館 正從 (北大・核)  
F.R. Ferguson, J.D. Laird, C.F. Russell  
(ベルファスト市ロイヤルビクトリア病院)

1985 年 1 月から 1993 年 12 月までロイヤルビクトリア病院にて術前にシンチグラフィを施行した原発性副甲状腺機能亢進症 160 例につき検討した。単発性腺腫 145 例の sensitivity は、全体で 55.2% であったが、重量が増すにつれて良好となった。また、単発性腺腫を示す single hot spot を示したものの 94 例では、72 例が正しく診断され、これをもとに、頸部一側のみ手術 (unilateral exploration) が施行された。多発性病変 4 例においては、シンチグラフィは、一病変